

ちなみに 若者が操る「ゆとり語」

文字の遊び、江戸時代にも

若い世代は携帯電話やインターネットのメールなどで、暗号と見まがうような文字を操る。2001年ごろ女子中高生を中心に広まったといわれる「ギャル文字」はその一つ。文字や記号を組み合わせて、新しい表記を作り出した。なぜそんな手間をかけるのか。日本語・漢字表記を研究する早稲田大学の笹原宏之教授は「あえて苦労して打つことで相手への親密さや共感も伝えている」とみる。

「ギャル文字」読めますか？

ギャル文字	読み方
おレ&ヨウ	おはよう
このL=ちレ&	こんにちは
ありカッ、コウ	ありがとう
レニレまのけレ、±//レ、	にほんけいざい

手書きと違い、メールは誰が書いても同じ文字で味気ない。工夫を加えて個性を表現するほか、仲間うちでの一体感を生み出すというわけだ。

ギャル文字は最近、目新しさが薄れて下火になった。かわって浸透してきたのは「ゆとり語」とも呼ばれるソフトな言葉。

「おはよう」といった小文字や記号・絵文字の多用、「まち」のような「じ・ぢ・ず・づ」の意図的な置き換えが特徴だ。「かわいいと感じていて、女子だけでなく一部の男子大学生にも広まっている」（笹原教授）。

若者独特の文字表現は今に始まったことではない。1980年代にはシャープペンシルの普及などを背景に、曲線を多用し、結びの部分強調する手書きの「丸文字」が流行した。「日本語の乱れ」「読みにくい」との声が多い一方で、大阪教育大学の小野恭靖教授（日本文学）は「そもそも言葉遊びは伝統的な日本の文化」と指摘する。

江戸時代には文字を分解し、暗号のようにする遊び「風流文字くどき通人ことば」があったという。なにやらギャル文字に一脈通じる発想だ。「豊かな漢字、ひらがな、かたかなを持つ日本語は遊びやすい言語。若者の表現はその多様な可能性を見せてくれるともいえる」と話している。